

## ○新たな地域課題に関する意見(臨時こども部会欠席者より)

### 年長児の就学に向けた放デイ利用申込で、必要な人が利用できる環境が必要

★話し合いのポイント(※欠席される方は、各項目に対する意見などを記載してください。)

『障がい児サービスが必要な人に適切な情報を伝えるにはどうすればよいか』

周知する適切な時期はあるか(一斉?随時? など)

○就学に向けて本人、保護者のライフスタイルの設計(就学先、放課後の過ごし方、保護者の生活)を考えるタイミング、悩んでいる時に相談する窓口が統一されて、保護者に周知されている事が望ましいと思います。

○子の障がいの程度や家庭環境、保護者の受容段階によって、就学後のライフスタイル設計と向き合えるタイミングが違ふような気がします。

前向きに動ける人もいれば、一般学校か支援学校かで迷う人もいます。

どの範囲まで周知するのか(サービスの存在のみ?制度や窓口まで?もっと詳しく? など)

○放デイがある事の周知というより就学に向けた様々な事を把握して、相談に乗ってくれる機関がある事が望ましく、その事が保護者に周知されている事がよいではないか。

※すでにあるのであれば勉強不足ですいません

各機関における必要な知識や情報は何か

○障がいのある子どもを抱える保護者が就学を控えた時、どのような事を知りたいのでしょうか?

★各機関における取組、その他の意見などがあれば、ご自由にお書きください。

○議論の前提として、放課後等デイを利用したくても十分な時間利用する事が出来ずに困っているニーズの全体像(人数や困っている個別案件)は把握すべきだと思います。

○サービスは個別契約である以上、サービスの受け手にも主体的な行動は必要だと思います。しかし、保護者にも様々な事情があるので、個別案件に丁寧に向き合い、平均的なサービス利用に向けた改善も必要だと思います。

○就学相談の中で、入学後の生活について聴き、個別に放デイの紹介を行うことはあります。

○毎年4月、4・5歳児、小6の保護者対象に、学校説明会を行っています。特別支援学校や特別支援学級への就学に関する手続きや通級による指導についての情報提供を行う中で、「放課後や長期休業中の過ごし方を考えておきましょう」と伝えています。市町によって、相談窓口が異なるため、詳しい話はしていません。